

LMEアルミは原油やドルなど左右

橋本金属
・アルミ 橋本健一郎氏リポート②



■概況

十一月前半はECBのドラギ総裁が政策金利を据え置いた後、必要とあれば追加の緩和策を行うことを全会一致で請け負っていることなどのプラス材料もあったが、十月の中国鉱工業生産は前年比七・七％増加、予想の八％増は下回る、十月の中国小売売上高は前年比一一・五％増加、予想は一一・六％増などの中国経済後退懸念の台頭からLMEアルミ相場はDOWN、十一月十五日時点で二、〇二九ドル(現物後場買い)と月初価格から二九ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は中国主要七〇都市の新築住宅価格は前年比二・六％下落。一〇月の中国への海外直接投資は前年同期比一・二％減の九五九億ドルだったこと、第三四半期のイタリアのDP速報値は前期比〇・一％減とイタリアのマリセッソン入りが確認されたことなどのマイナス材料もあったが、十一月の独ZEW景気期待指数は一一・五、予想の〇・五を上回ったこと、3Qの米GDP改定値は前期比三・九％増に上方修正、予想の三・三％増を上回ったことを好感しLMEアルミ相場は上昇、十二月一日現在、LME(現物後場)一一、〇五一・五〇ドルと後半スタート価格から一〇・五ドルUPしてのスタートとなった。

■前月の経済指標

●月間のドル/円レート(TTS)
一一三・二六→一一九・六五(円)

●自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比六・三％減の八一万六、九三六台であった。

●自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一一・五％減の二三万九、二〇七台。

●新設住宅着工戸数

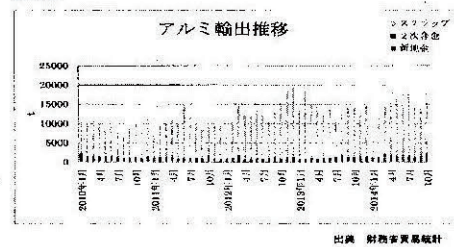
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一二・三％減の七万九、一七一戸であった。

●貿易関連指標

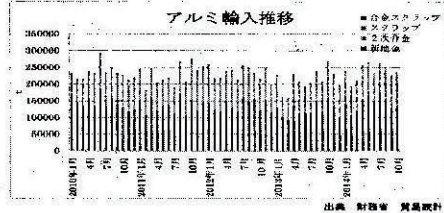
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新

地金が前年比一二・九・七％増の四六七t、二次合金が五五・一％増の一、七四九t、スクラップが一・二％増の一、五五五t。輸入は新地金が前年比一三・一％減の一三万六、三九二t、二次合金が五・二％減の一〇万一、四三三t、スクラップが八七・二％増の一、二二八t、合金スクラップは五七・九％増の七、九〇八t。

	8月	9月	10月
輸出			
新地金	186 t	55 t	467 t
前年比	+18.9%	-73.3%	+129.7%
二次合金	1154 t	1354 t	1749 t
前年比	-25.2%	+37.8%	+55.1%
スクラップ	1万2664 t	1万2893 t	1万3155 t
前年比	+9.5%	-3.3%	+1.2%
輸出推移			



	8月	9月	10月
輸入			
新地金	15万8563 t	12万9505 t	13万6392 t
前年比	+5.0%	+7.9%	-13%
二次合金	9万1396 t	9万6448 t	10万1434 t
前年比	+4.9%	+12.8%	-0.2%
スクラップ	1103 t	1046 t	1228 t
前年比	+80%	+41.5%	+67.2%
合金スクラップ	5713 t	5761 t	7903 t
前年比	+32.9%	+72.7%	+57.9%
輸入推移			



■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・八％増の一八万二、〇一八t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比二・三％減の七万三、二六四であった。(六面へ続く)

■概況

十月の四輪車生産台数は八万六、九三六台で、前年同月の八万七、一五七〇台に比べて五万四、六三三台・六・三％の減少となり、四カ月連続で前年同月を下回った。

十月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。乗用車六万八、三九七台・八・二％増、九三〇台・八・二％の減少となり、四カ月連続のマイナス。のうちは普通車は三万九、七五五台・三・三％増、九一七台・七・九％の減少。小型四輪車は一四万〇、四〇四台・二・八％増、八〇〇台・一・七％の減少。軽四輪車は一四万六、〇一九台・二・七％増、一・二％の増加。

トラック二万九、七二八台・三・九八五台・三・四％の増加となり、二カ月連続のプラス。このうち普通車は五万五、八八二台・六・二〇六台・二・五％の増加。小型四輪車は二万七、七六五台・三・一〇一〇台・二・六％の増加。軽四輪車は三万六、〇八一〇台・五・三三二台・二・九％の減少。

バス二万三、三三〇台・二・三二一〇台・二・二％の増加となり、二カ月連続のプラス。このうち大型は一〇、二一七台・二・一八％の増加。小型は一、二二九台・二・二〇四台・三・〇％の増加。

十月の国内需要は三九万六、五〇八台で、前年同月比六・〇％の減少であった。うち乗用車三万八、三三一〇台・前年同月比七・四％の減少。トラック六万七、二三五台・同・一・三％の増加。バス九四四台・同・一・五％の増加。輸出は前年同月比一・六％の減少(実績)。

十一月の国内自動車販売台数(軽を除く)は三万九、二〇七台で、前年比二・三・五％減と、四カ月連続のマイナス。うち乗用車一五・九％減、貨物四・一％増、バス二・七％増。

十月の住宅着工戸数は七万九、一七二戸で、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の影響が大きかった前年同月比では二・三％減となった。一方、季節調整済年率換算値は九〇・四万戸(前月比二・七％増)で、三カ月連続の増。

(持家)前年同月比では九カ月連続の減少(前年同月比二・八・六％減。季節調整値の前月比では一・七％減。)

(貸家)前年同月比では四カ月連続の減少(前年同月比四・一％減。季節調整値の前月比では四・四％増。)

(分譲住宅)前年同月比では九カ月ぶりの増加(前年同月比一・六％増。季節調整値の前月比では四・九％増。)

(分譲マンション)前年同月比では九カ月ぶりの増加(前年同月比二・三・三％増。)

(分譲一戸建住宅)前年同月比では六カ月連続の減少(前年同月比二・一・八％減。)

日本アルミ・ワム合金協会発表のアルミ・ワム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比二・三％減の七万三、二六四台であった。出荷は一・三％減の七万三、九一六トンと、九カ月連続のマイナス。

このうち出荷分野別では、鋳物四・一％減、ダイカスト〇・三％減、板二・六％増、押出九％減、鉄鋼一〇・七％増、合金地金メーカー一・六％減。

アルミ延延・押出品生産数は二・八％増の一八万二、〇一八台で、一四カ月連続のプラス。

アルミ輸出は新地金が前年比二・九・七％増の四六七、二次合金が五・一％増の一、七四九t、スクラップが一・二％増の一、二五五t。

輸入は新地金が前年比二・三％減の二、三万六、三九二t、二次合金は五・二％減の一〇万、四三三t、スクラップは八七・二％増の一、二三八t、合金スクラップは五七・九％増の七、九〇八t。

自動車は生産が前月に続き減少の六・三％減。また十一月の国内販売台数も前年比二・三・五％減と減少幅も拡大。販売の減少が続くメーカーもそれに伴い生産を調整した。輸出は今月も一・六％減と悪化。下げ止まりがいつか今後の動向に注目。

・新設住宅着工戸数は前年比二・三・三％減。季節調整済年率換算値で九〇・四万戸(前月比二・七％増。消費税率の駆け込み需要も終了。八カ月連続減少。ただ季節調整済換算では三カ月連続のプラスであり、今後の動向に期待する。

・二次合金 自動車生産の減少で生産も小幅減少に転じ、出荷は相変わらず減少。今後も大幅な改善は期待できないが大幅な悪化もないとの見解。

・アルミ延延・押出品生産数

前月の続き自動車向けの板や押出し全般はよくないものの、板がポルトガル・ヒト、条が輸出で増加しており、今後もこの傾向が続くとの見解。

・輸出 世界的に需要の多い自動車用の二次合金が円安も伴って増加。

輸入 新地金、二次合金は円安からの割高感から減少はするものの、スクラップは自動車生産台数の高止まりをうけての慢性的な原料不足から増加。円安は当分続くとしており、上記の傾向は続く。

前記を踏まえアルミスクラップ需給は引き続きタイトとの見解。

【価格為替予想】

今月は、原油価格やドル及び、日本の衆院選後の政策に左右される。

WTI原油は二十七日のOPECで減産がなかったことから六五ドル割れまで下落。採算ラインとされる七〇ドルをあまり割り込んだ。ただ今回のOPECでもわかつたようにアメリカのシェールガス採掘に伴う石油からの脱却への警戒感からOPEC諸国は価格よりも石油のシナ拡大に重きを置いており価格対策に走る可能性は低い。また米国にとっても原油安は年末のクリスマス商戦にプラス材料であることから放置気味。

故に一旦は節目となる六〇ドルを割り込むのではないかと。

衆院選に関しては自民圧勝は間違いない。また消費税の先延ばしも織り込み済みであり、選挙後の景気対策に期待している。

それらを踏まえた十二月のアルミ価格はWTI原油の急落への警戒感からOPECが何らかの策に言及し、六五・七〇ドル辺りで推移、それによるドル高・ユーロ安に歯止めがかかった場合、十一月高値の二・一〇〇ドルを予測。いずれの場合も二・一〇〇ドル・下値はいずれの条件も達成できなかった場合も一段安値の二・九〇〇ドル。

為替は先月の日銀の追加的金融緩和策の流れやWTI原油暴落に伴うドル高から二・一〇〇円辺りまで下落した。今後もOPECの方針を受けてWTI原油が六〇ドルに向かつて下落するようであればドル高から下値は二・二五円台、上値はOPECが価格維持に方針転換した場合節目の二・一五円と予測(TTM)。

メーカースクラップ購入価格は〇・五円高と予測している。